

令和 2 年度森林環境譲与税使途実績一覧

(単位：千円)

事業名	事業内容	事業総額	森林環境譲与税充当額	その他財源
森林経営管理事業	市内森林整備状況の把握や、意向調査地選定のための森林経営管理制度支援システム構築業務委託	7,513	7,513	0
森の未来づくり事業	第2次新城市森づくり基本計画策定業務委託並びに計画策定のための森づくり会議を実施	7,162	7,010	152
間伐材利用事業	市内山林で伐採された間伐材をチップ材等に利活用するため、山林所有者による搬出事業	330	330	0
薪生産活動用資機材購入	薪ボイラーで使用する薪の生産効率を向上するため、薪を保管、運搬するための収納ラックを購入	1,705	1,705	0
湯谷温泉配湯事業	湯谷温泉薪ボイラー施設で利用する、地域材による薪生産及び薪ボイラーへの薪投入並びに薪ボイラー保守点検業務委託	18,095	18,095	0
森づくり基金積立事業	令和5年度から市主体の森林整備(森林経営管理事業)を実施するための基金積立	66,135	66,135	0

* 令和 2 年度森林環境譲与額：100,788千円

- ▶ 新城市では、森林経営管理制度に基づく森林整備を進めるにあたり、航空レーザ測量データを活用したシステムの構築を進めている。
- ▶ 令和2年度においては、作手地区の測量データを整備し、意向調査地の選定を進めた。
- ▶ 令和3年度においては、更に、新城、鳳来地区のデータ整備を進め、森林所有者に対し、意向調査を進めていく。

□ 事業内容

1 森林経営管理事業

- ・ 林地台帳作成及び森林経営管理制度支援システム構築業務。

【事業費】 7,513千円（全額譲与税）

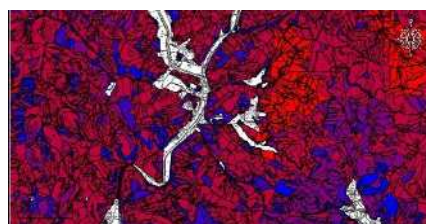
【実績】 今回整備したデータ（作手地区のみ）

- ・ レーザ測量データ 117km²
- ・ 林道台帳 70.0km
- ・ 作業道台帳 53.0km
- ・ 林地台帳データ 80,000筆

今回整備したデータから、林業適地が色分けで表示され、意向調査地選定に活用していく。



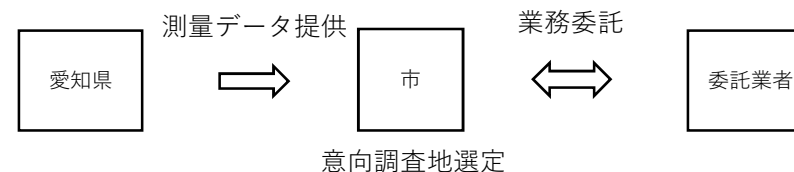
（赤色立体図）



（林業適地図）

□ 事業スキーム

1 システム構築



□ 工夫・留意した点

- ・ LGWAN回線を利用したクラウドシステムを採用。職員の個人端末からアクセスでき、業務効率が上がった。
- ・ 窓口対応では、紙ベースの図面で説明を行っていたが、モニターを活用した説明は来庁者にも好評である。
- ・ レイヤ設定により、過去の施業確認が容易になった。

◇ 基礎データ

①令和2年度譲与額	100,788千円
②私有林人工林面積（※1）	26,844ha
③林野率（※2）	83.2%
④人口（※3）	47,133人
⑤林業就業者数（※3）	122人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3：「H27年国勢調査」より

- ▶ 新城市では、豊かな森林環境や森林資源を次世代に継承し、住み良い地域としていくため、平成21年に「新城市森づくり基本条例」を策定するとともに、平成22年「新城市森づくり基本計画」を策定し、森林の持つ多くの機能が十分発揮されるよう、森づくりに関する各種施策を総合的かつ計画的に推進してきました。
- ▶ 令和2年度においては、10年間の成果と本市の森林・林業の現状・課題を改めて整理し、次の10年間に向けた新たな「第2次新城市森づくり基本計画」を策定しました。

□ 事業内容

1 森の未来づくり事業

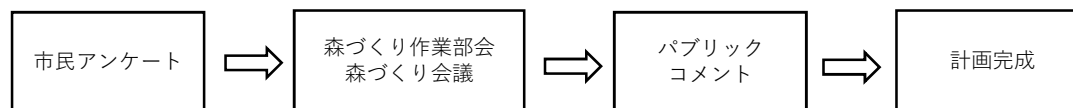
- ・ 第2次新城市森づくり基本計画策定

【事業費】 7,162千円（うち譲与税7,010千円）

- 【実績】
- ・ 森づくり作業部会4回開催
 - ・ 森づくり会議4回開催
 - ・ 市民アンケート実施
 - ・ パブリックコメント実施

□ 事業スキーム

1 計画の策定



□ 工夫・留意した点

- ・ 幅広い意見を取り入れるため、市民アンケートは無作為で抽出した市内在住の市民2,000名を対象とした。
- ・ 毎年度、指標の達成度及び施策の進捗状況を管理するため、実行計画管理シートを作成した。



(第2次新城市森づくり基本計画)

◇ 基礎データ

①令和2年度譲与額	100,788千円
②私有林人工林面積（※1）	26,844ha
③林野率（※2）	83.2%
④人口（※3）	47,133人
⑤林業就業者数（※3）	122人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3：「H27年国勢調査」より

- 新城市では、令和元年度より稼働を始めた湯谷温泉木質バイオマスボイラーの燃料として、市内の間伐材から薪を生産することとしています。薪を安定的に生産することで、ボイラーを常時稼働することが可能になると共に、間伐材を利用することによる森林整備の促進を図ります。
- 令和2年度においては、薪の保管・運搬用に収納ラックを100基購入し、薪生産量が増加しました。
- 令和3年度以降も、安定的な薪生産を進めていきます。

□ 事業内容

1 薪生産活動用資機材購入

- ・ 収納ラック100基購入

【事業費】1,705千円（全額譲与税）

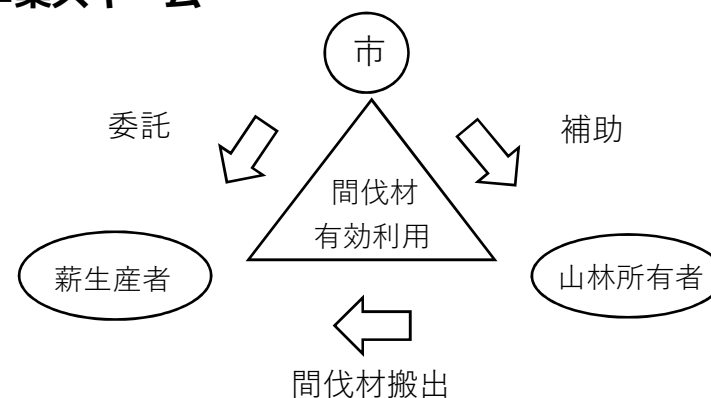
【実績】薪生産量839m³

薪ボイラー稼働日数276日



（収納ラック）

□ 事業スキーム



□ 工夫・留意した点

今回100基購入したことにより、昨年度より生産量が33%増加した。

◇ 基礎データ

①令和2年度譲与額	100,788千円
②私有林人工林面積（※1）	26,844ha
③林野率（※2）	83.2%
④人口（※3）	47,133人
⑤林業就業者数（※3）	122人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3：「H27年国勢調査」より